（本論）

「福島県こどもの冒険広場設置運営業務委託事業子どもが自然と遊ぶ楽校ネットの事業成果の分析評価」

もくじ

I. 実施団体代表から「福島県こどもの冒険広場設置運営業務委託事業関わって」
子どもが自然と遊ぶ楽校ネット代表　進士　徹

II. 活動実績
⑴ 実績（回数・参加人数・実施地域）
⑵ 遊びの実績

III. 調査
⑴ アンケート調査結果
⑵ 聞き取り調査結果
対象・保護者
対象・指導員

IV. 評価・分析

V. まとめ

Ⅰ．実施団体代表から

「福島県こどもの冒険広場設置運営業務委託事業に関わって」

子どもが自然と遊ぶ楽校ネット

代表　進士　徹

～冒険ひろばの活動に寄せて～

子どもが自然と遊ぶ楽校ネット
代表　進士　徹

平成２８年度から福島県子ども未来局より「福島県子どもの冒険ひろば設置運営業務委託事業」の活動を「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」（以下、楽校ネット）が委託事業としてお受けいたしました。

「震災から６年の時間が経過」

２０１１年3月１１日に発生した東日本大震災・津波・原発爆発事故により福島県民は大変な苦悩を背負うことになりました。見えない放射線への不安は、当たり前の暮らしが一変し、子どもは外で遊ぶことさえ一時は全く出来なくなってしまった悔しく、悲しい思いは決して忘れることはありません。

ですが、時間の経過と共に放射線への学習や除線作業の努力もあり、公共施設や公園では常に放射線のモニタリングをするようになり、安心して遊べる環境作りも進みました。

「活動の意義」

冒険ひろばでは見えない放射線を怖がるのではなく、きちんと測定を行い、安心して自由に野外で思いきり遊べる環境を創り出し遊べる場を提供すること。そこに県内全域にネットワークの楽校ネット団体メンバーが責任感を持って活動を運営する事により、さらに活動のスキルアップや活動内容の充実にも発展します。楽校ネットの連絡連携が既に構築しているが故に、子ども達が活き活きと元気で遊ぶ事を後押しして関わりを持てていることは最大の強みでもあります。

現に活動場所で見られた子どもの姿は、笑顔があふれ伸び伸びと遊ぶ姿でした。

「私たちの想い」

今後は震災・原発事故直後の悔しさと悲しい想いから抜けだし、福島県の子ども達の成長に願うことは「体を動かし活発な事が好き、心の壁を持たず、明るく笑顔で仲間作りが得意。楽しむ心と工夫する創造力の優れている子です。」伸び伸び体を思いきり動かし、遊びを通して感じた事や学び様々な思いを大切にして欲しいです。

子ども頃に遊んだ思い出はいつになっても鮮明に覚えているものです。あの時冒険ひろばで、遊んだことが楽しくて忘れられない！！といつまでも心の中に生き続けてくれると嬉しいです。

県と連携した冒険ひろばの活動が今後も広がる事を大いに期待しています。

Ⅱ．福島県こどもの冒険広場設置運営業務委託事業活動実績

（１）活動実績①（実施回数・参加人数・実施地域）

２０１６年度　福島県子どもの冒険ひろば設置運営業務　実績

◆５月～３月までの実績

Ｎｏ.	実施日	実施団体	実施場所	実施地域	参加人数（子ども）	参加人数（保護者）	参加人数（引率者等）
1	５月２１日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１０	7	
2	５月２８日	寺子屋方丈舎	仁井田本家	郡山市	１４	１１	
3	６月４日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	１２		
4	６月８日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	9		
5	６月１１日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	8	6	
6	６月１２日	いいざかサポーターズクラブ	野田児童センター	福島市	１００	３０	
7	６月１２日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２６	5	
8	６月１５日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１４	4	2
9	６月１８日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１４	7	
１０	６月１９日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	２６	5	4
１１	６月２２日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１１		
１２	６月２５日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１１	9	
１３	６月２６日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２３	7	
１４	６月２９日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１１		
１５	７月２日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１８	１０	
１６	７月２日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	１０		
１７	７月３日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２２	１６	
１８	７月６日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	7		
１９	７月８日	いいざかサポーターズクラブ	湯川いこいの河畔公園	会津若松市	１２		
２０	７月９日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１０	１０	
２１	７月１０日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２０	１０	
２２	７月１３日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１２		
２３	７月１４日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１４		6
２４	７月１５日	りょうぜん里山がっこう	原釜幼稚園	相馬市	４０		１０
２５	７月１６日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２４	6	
２６	７月１７日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１５	8	
２７	７月１７日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２２	１８	3
２８	７月２０日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１６		
２９	７月２３日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１２	5	
３０	７月２４日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２５	１４	
３１	７月２５日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２５		5
３２	７月２６日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	１３		2
３３	７月２７日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２０	１０	
３４	７月２７日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	２４	6	
３５	７月２８日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２４		4
３６	７月２８日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	３３		2
３７	７月２９日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２３	8	
３８	７月３０日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２０	4	3
３９	７月３１日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	8	6	
４０	８月１日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２４		3
４１	８月１日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	9	4	
４２	８月２日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	9	4	
４３	８月２日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	３５		3
４４	８月３日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	8	2	3
４５	８月４日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２５		8
４６	８月５日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２０		3
４７	８月５日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	4	2	
４８	８月６日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	4	2	
４９	８月７日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１７	１１	
５０	８月８日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２６		7
５１	８月９日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	３６		7
５２	８月１０日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	3	2	
５３	８月１１日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	４７		２０
５４	８月１２日	いいざかサポーターズクラブ	湯川いこいの河畔公園	会津若松市	6	1	
５５	８月１４日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	１０	7	
５６	８月１８日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	３８		7
５７	８月１８日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	２７		5
５８	８月１９日	いいざかサポーターズクラブ	湯川いこいの河畔公園	会津若松市			1
５９	８月２０日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	4	4	1
６０	８月２１日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２４	１６	1
６１	８月２３日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	３７		5
６２	８月２４日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	5		
６３	８月２７日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	１０		
６４	８月３１日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１２		
６５	８月３１日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	6		
６６	９月４日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	４５	２６	3
６７	９月７日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	１１		
６８	９月７日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	6		
６９	９月１０日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	２０	8	
７０	９月１０日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	１０		

活動実績②（実施回数・参加人数・実施地域）

71	9月11日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	15	6	
72	9月14日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	1		2
73	9月14日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	8		
74	9月16日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	21	19	4
75	9月21日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	11	2	
76	9月21日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	6		
77	9月24日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	29	5	1
78	9月25日	寺子屋方丈舎	湯ノ岳山荘	いわき市	16		
79	9月28日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	3	1	
80	9月28日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	6		
81	10月3日	いいざかサポーターズクラブ	山上小学校	相馬市	8		4
82	10月4日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	17	2	
83	10月5日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	8		
84	10月12日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	33		3
85	10月12日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	4		
86	10月15日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	7	2	
87	10月15日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	15		
88	10月16日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	33	13	
89	10月17日	いいざかサポーターズクラブ	野田児童センター	福島市	40	1	3
90	10月19日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	19	3	
91	10月19日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	12		
92	10月22日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	9	9	
93	10月23日	寺子屋方丈舎	湯ノ岳山荘	いわき市	17		
94	10月23日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	8	8	
95	10月24日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	32	3	4
96	10月26日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	16		
97	10月26日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	8		
98	11月2日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	25		
99	11月2日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	7		
100	11月3日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	120	60	
101	11月6日	寺子屋方丈舎	湯ノ岳山荘	いわき市	15		
102	11月8日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	35		4
103	11月9日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	6		
104	11月9日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	5		
105	11月14日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	32		3
106	11月16日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	21		
107	11月16日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	5		
108	11月20日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	16		6
109	11月22日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市			
110	11月23日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	60	30	
111	11月26日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	11		
112	11月26日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	60	30	
113	11月27日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	4	3	
114	11月28日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	19	1	2
115	11月30日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	24		
116	11月30日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	11		
117	12月1日	寺子屋方丈舎	湯ノ岳山荘	いわき市	16		
118	12月3日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	10		
119	12月6日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	36		3
120	12月7日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	7	7	4
121	12月7日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	23	1	
122	12月7日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	12		
123	12月9日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	28	3	3
124	12月10日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	28		4
125	12月12日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	32	2	4
126	12月14日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	5		1
127	12月14日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	10		
128	12月17日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	60	30	
129	12月18日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	1	1	
130	12月20日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	37		4
131	12月21日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	19	2	2
132	12月21日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	10		
133	1月7日	いいざかサポーターズクラブ	茂庭広瀬公園	福島市	11		2
134	1月10日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	29		3
135	1月11日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	5		
136	1月11日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	10		
137	1月14日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	8	2	
138	1月14日	いいざかサポーターズクラブ	摺上川ダム駐車場	福島市	29		2
139	1月14日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	11		
140	1月15日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	4	1	

活動実績③（実施回数・参加人数・実施地域）

141	1月16日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	24	1	2
142	1月18日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	2	1	
143	1月18日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	11		
144	1月21日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	20	10	
145	1月21日	いいざかサポーターズクラブ	摺上川ダム駐車場	福島市	15	1	3
146	1月22日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	60	30	
147	1月22日	いいざかサポーターズクラブ	摺上川ダム駐車場	福島市	38	12	2
148	1月24日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	34		2
149	1月25日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市			
150	2月1日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	5		
151	2月1日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	12		
152	2月4日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	70	35	
153	2月4日	いいざかサポーターズクラブ	摺上川ダム駐車場	福島市	27		6
154	2月4日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	10		
155	2月5日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	40	20	
156	2月7日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	39		2
157	2月8日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市			
158	2月8日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	10		
159	2月10日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	41		3
160	2月11日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	20	10	
161	2月12日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	30	15	
162	2月15日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	8		
163	2月15日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	11		
164	2月18日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	50	25	
165	2月18日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	10		
166	2月19日	あぶくまエヌエスネット	いわき公園	いわき市	50	30	
167	2月19日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市			
168	2月21日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	29		3
169	2月22日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	8	4	
170	2月22日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	10		
171	2月27日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	29		2
172	3月1日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	9	2	
173	3月1日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	12		
174	3月3日	いいざかサポーターズクラブ	熊倉児童館	西郷村	79		3
175	3月7日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	38		3
176	3月8日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	2		
177	3月8日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	13		
178	3月10日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	33		2
179	3月11日	寺子屋方丈舎	子どもの森	会津若松市	10		
180	3月13日	いいざかサポーターズクラブ	希望ヶ丘児童センター	郡山市	28		2
181	3月15日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	11		4
182	3月15日	寺子屋方丈舎	大町中央公園	会津若松市	11		
183	3月17日	いいざかサポーターズクラブ	熊倉児童館	西郷村	87		4
184	3月18日	寺子屋方丈舎	新郷地区呼賀	西会津町	14		
185	3月19日	寺子屋方丈舎	新郷地区呼賀	西会津町	13		
186	3月20日	寺子屋方丈舎	新郷地区呼賀	西会津町	15		
187	3月21日	いいざかサポーターズクラブ	川原町児童センター	相馬市	40		1
188	3月22日	いいざかサポーターズクラブ	乙和公園	福島市	13		
189	3月31日	りょうぜん里山がっこう	りょうぜん里山がっこう	伊達市	33		5
合計					3,789	754	235

地域別実施回数		県内実施回数	
福島市	66	会津	42
伊達市	37	中通り	116
相馬市	12	浜通り	31
会津若松市	39		
西会津町	3		
いわき市	19		
郡山市	11		
西郷村	2		
合　計	189	合　計	189

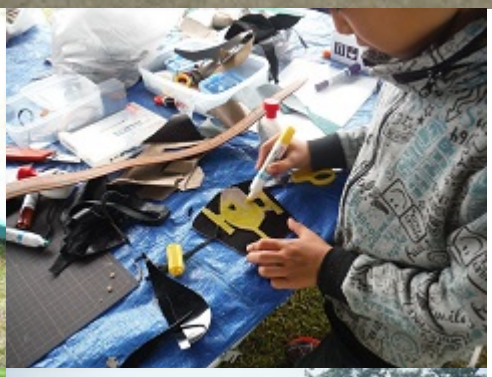
（２）活動実績④実施地域まとめ

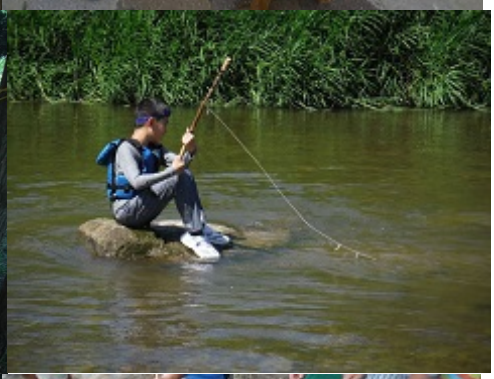
平成 29 年 3 月 31 日

No.	市町村名	会場名	回数	市町村別	地域別
1	福島市	乙和公園	44	66	116
2	福島市	野田児童センター	2		
3	福島市	茂庭広瀬公園	16		
4	福島市	摺上川ダム駐車場	4		
5	伊達市	りょうぜん里山がっこう	37	37	
6	郡山市	仁井田本家	1	13	
7	郡山市	希望ヶ丘児童センター	10		
8	西郷村	熊倉児童館	2		
9	会津若松市	湯川いこいの河畔公園	3	39	42
10	会津若松市	大町中央公園	25		
11	会津若松市	子どもの森	11		
12	西会津町	新郷地区呼賀	3	3	
13	相馬市	原釜幼稚園	1	12	31
14	相馬市	山上小学校	1		
15	相馬市	川原町児童センター	10		
16	いわき市	湯ノ岳山荘	4	19	
17	いわき市	いわき公園	15		
計			189	189	189

（2）遊びの実績（中通り事例）

MINNIE MOUSE



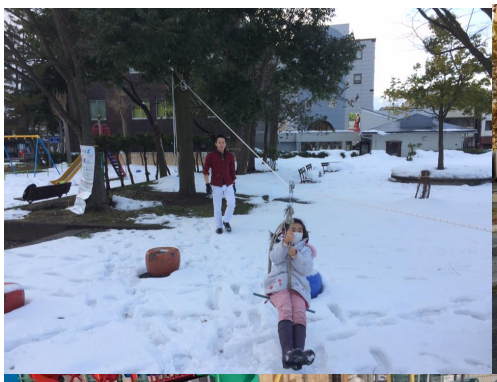


遊びの実績（種類）

1. 綱引き
2. 雪穴ほり
3. 雪上にみんなでゴロン
4. ソリ遊び
5. 竹で工作
6. 木で盤上ホッケー
7. 長縄飛び
8. 雪で造形遊び
9. 竹馬遊び
10. テントに落書き
11. 雨の日絵具調合
12. ネット登り
13. 金槌で石を粉砕
14. 水場で泥水つくり
15. 絵具の調合実験
16. プールつくり
17. 弓矢創り
18. スラックライン
19. 竹材と自然素材で、おままごと
20. ライフジャケットを着て川遊び
21. 竹運び
22. ハンモック会議
23. 木登り
24. 梯子担ぎ
25. 焚火
26. 蔓を使ったリース作り
27. 色付き泥つくり
28. 縄梯子登り
29. カラー雪団子作り
30. 野外御茶会
31. 七輪焼餅
32. 土玉つくり
33. のこぎり遊び
34. 風あそび

35. マンカラ
36. クラフト
37. 泡遊び
38. バレーボールコート作りとバレーボール
39. 竹担ぎ散歩
40. 軽自動車トランクで、おしゃべり
41. ロープブランコ
42. 生き物最終と観察
43. 流しそうめん道具つくり
44. 枝で苔いじり
45. ロープ渡り
46. 竹水路つくり
47. ハンモックで昼寝
48. 手作り釣り竿を釣り
49. 流しそうめん
50. コンロで焼餅
51. 岩に色塗り
52. 木からロープで空中散歩
53. 木の上ミーティング
54. ハンモックブランコ
55. 木製車引き
56. 箱の中隠れ
57. 雪ベット
58. 旗作り
59. 車チューブで川遊び
60. 木を引っ張る
61. ベーゴマ
62. 砂場遊び
63. ロープで人間引っ張り
64. バランス平均台
65. 木製オセロを積木
66. ペットボトル水鉄砲
67. 勇者ごっこ
68. 竹の切り出し
69. 雪の丘を転げ落ちる
70. 鬼ごっこ
71. サッカー
72. ロープ登り
73. ロープ下り
74. 縄跳び

遊びの実績（会津地域）



遊びの実績（種類）

1．鬼ごっこ
2．かくれんぼ
3．遊具遊び
4．ターザンロープ
5．雪だるまつくり
6．野外力検定
7．ボール遊び等

遊びの実績（浜通り）

遊びの実績（種類）

1. ファミリーゴルフ
2. ホールインワン競争
3. スラッグライン
4. モンキーロープ
5. どん！じゃんけんぽん（じゃんけんゲーム）
6. ロープのぼり
7. ロープブランコ
8. 手作りブランコ
9. ブランコ立ち乗り
10. ブランコ二人乗り
11. 室内ペタンク
12. フリスビー
13. 長縄八の字飛び
14. 長縄郵便屋さん飛び
15. 長縄ダブルダッチ
16. 長縄リンボーダンス
17. 縄跳び回数競争
18. 縄跳び時間競争
19. 鬼ごっこ
20. 砂絵遊び
21. サッカー
22. 体操
23. スタッフと遊び・肩車
24. スタッフと遊び・おんぶ
25. スタッフと遊び・じゃれあい
26. スタッフと遊び・ジャイアントスイング
27. スタッフと遊び・カメラ撮り合い
28. スタッフと遊び・どろぼうごっこ
29. スタッフと遊び・水の掛け合い
30. 大型滑り台での滑り遊び・
31. 大型滑り台での鬼ごっこ
32. ゾンビごっこ
33. （既存の遊具）リンボーダンス
34. （既存の遊具）鉄棒遊び
35. （既存の遊具）平行棒遊び
36. （既存の遊具）跳び箱
37. （既存の遊具）腹筋台
38. 腹筋競争
39. （既存の遊具）ジャンプタッチ
40. （既存の遊具）のぼり棒遊び
41. （既存の遊具）ぐらぐらトンネル

ⅲ．調査結果

（１） アンケート調査

＊アンケート調査に関しては、設置場所によっては、受益者にアンケートの実施が難しい場合があった。（設置場所からの退出の区切りがなく、アンケートを取りづらい現状。）そのために、今回は、アンケートの実施がしやすい飯坂サポーターズクラブが実施した冒険ひろばで取得したアンケートをサンプルとして分析対象としました。アンケートに関しては以下の方法で実施しました。

① アンケートの実施場所

茂庭広瀬公園

福島市飯坂町茂庭字広瀬前 1 番地の 2 他

② アンケートの実施日時

平成 28 年 7 月 17 日～平成 28 年 9 月 24 日

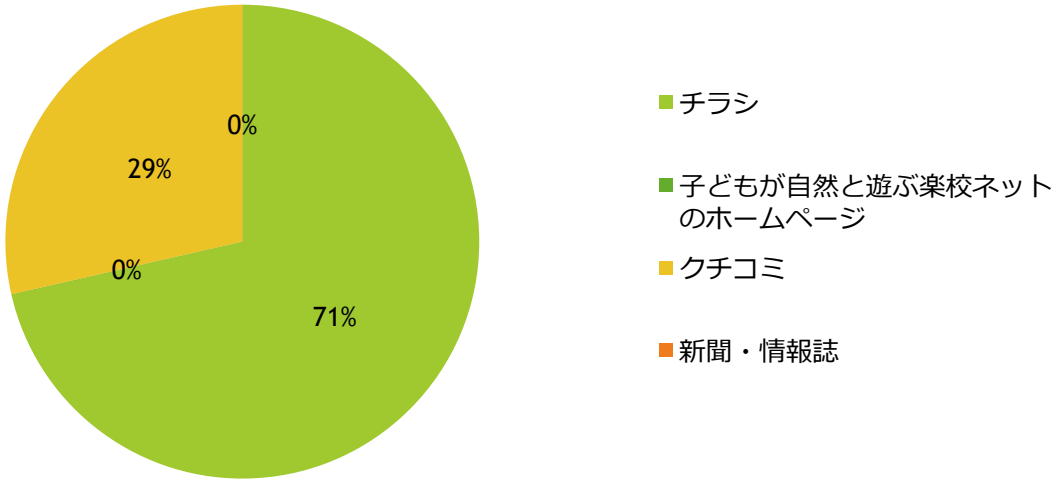
③アンケート対象

茂庭冒険ひろばに参加した子ども 774 人

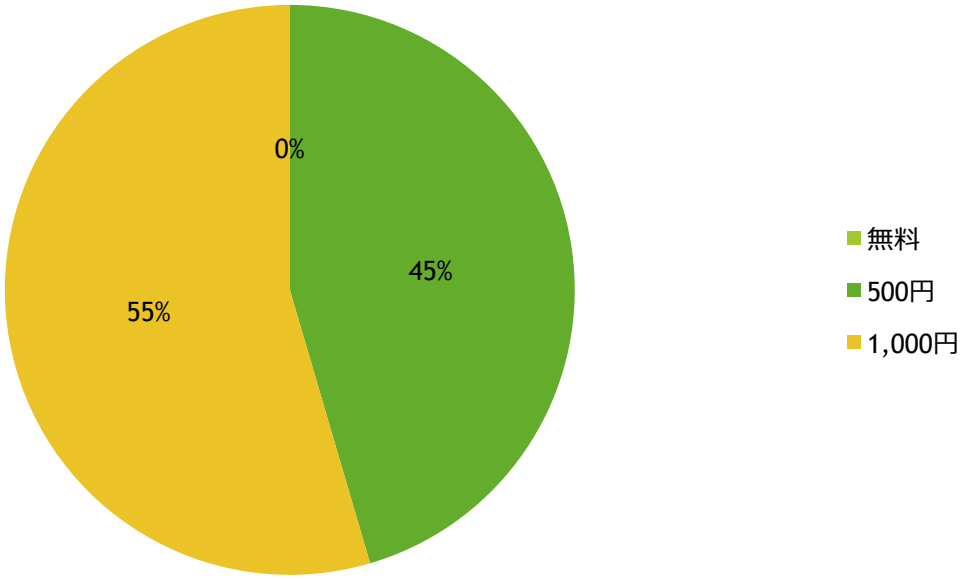
茂庭冒険ひろばに参加した子どもの保護者 41 人

④アンケート結果（保護者アンケート結果）

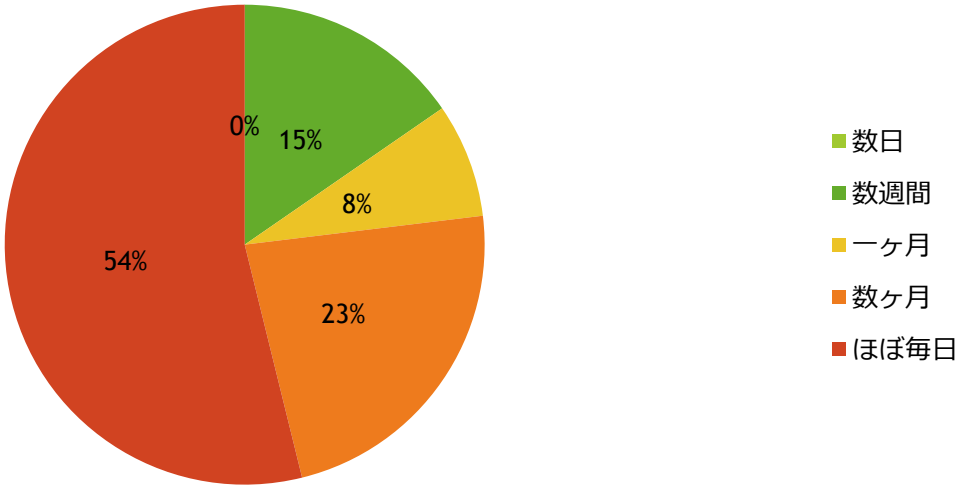
Q1　今回参加された事業をどのようなメディアで知りましたか？



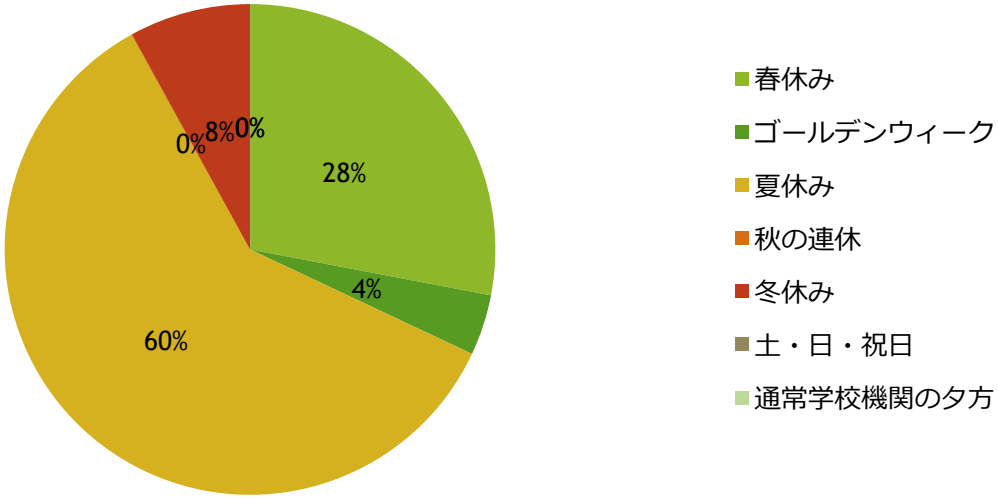
Q3　今年度は無料ですが、今後「茂庭プレイパーク」が有料になった場合、料金設定がいくらだと参加可能ですか。



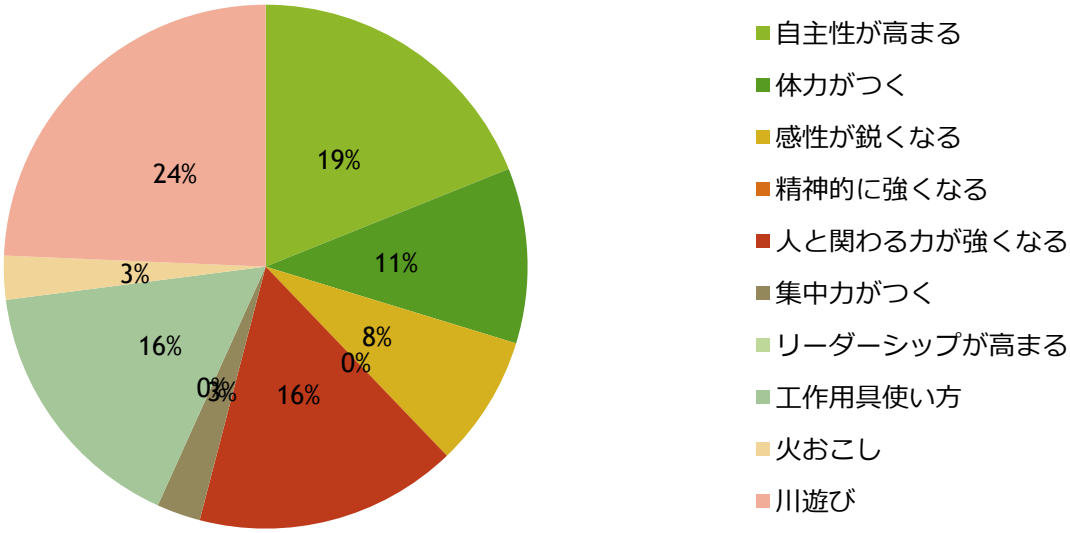
Q4　年間を通して「外遊び・自由遊び」を、子ども達にしてもらいたいですか。



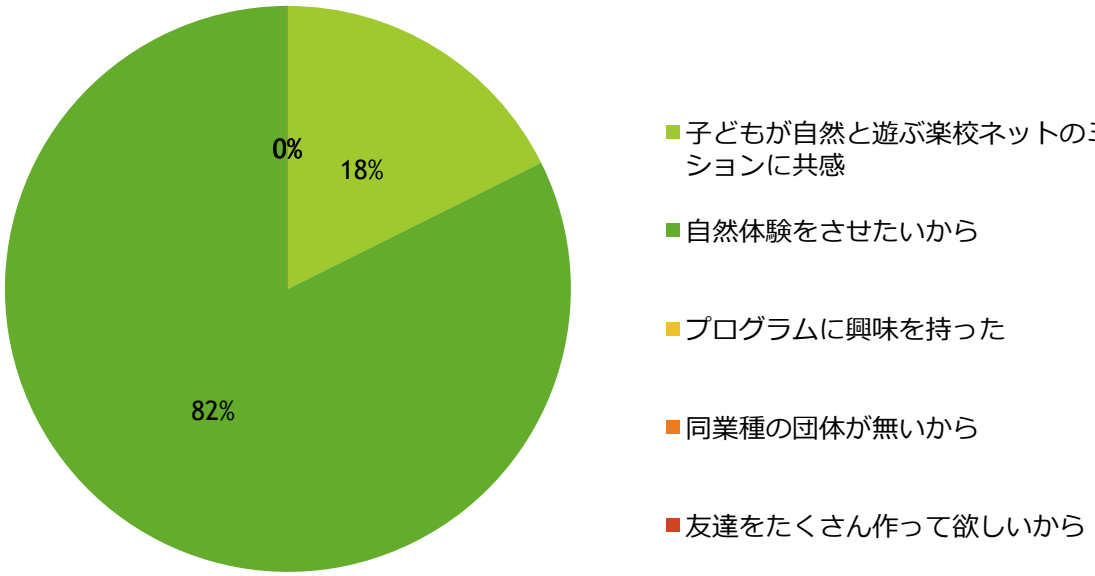
Q5　子ども達と遊び場に参加しやすい時期はいつですか？



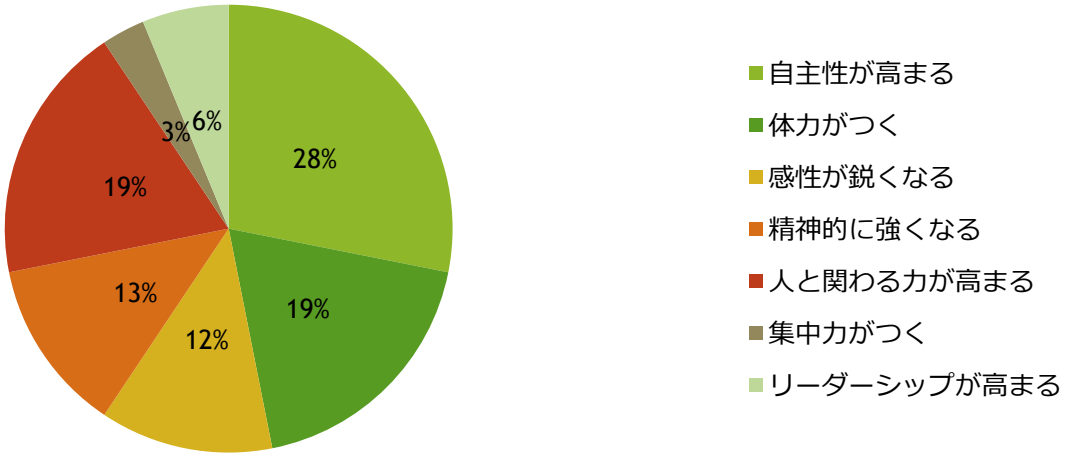
Q6　冒険遊び場・茂庭プレイパークへ児童にどのような効果を望んで参加させましたか？



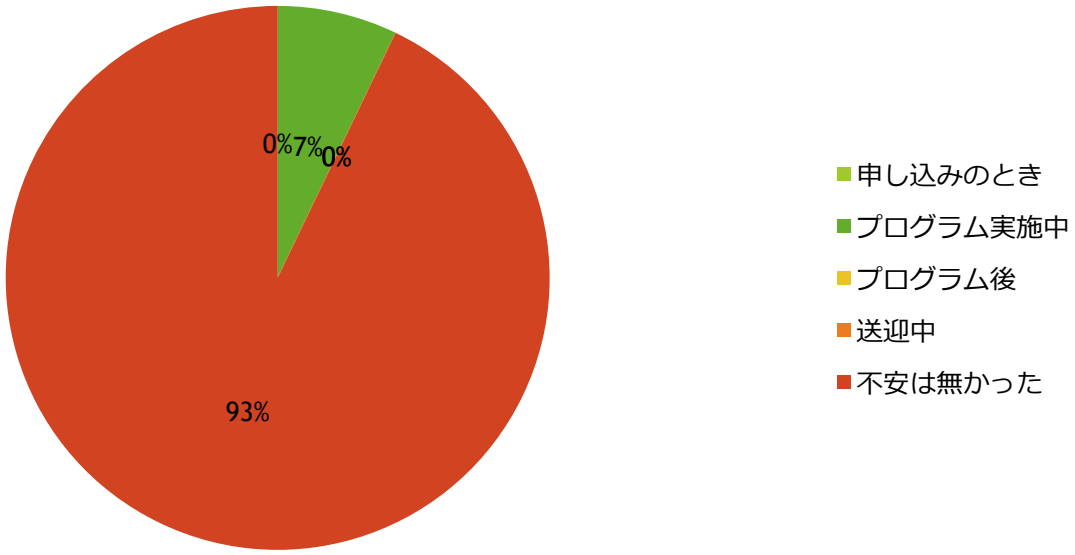
Q7　学童として冒険遊び場・茂庭プレイパークへ、児童を参加させる動機は何ですか？



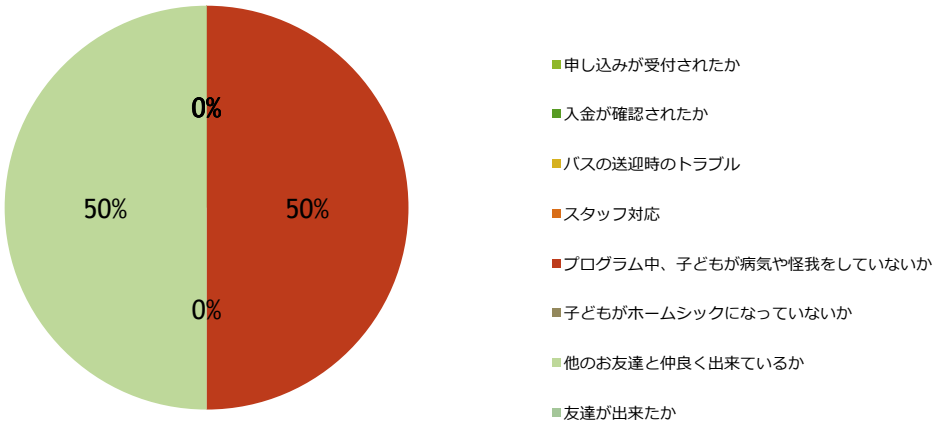
Q8　もし冒険遊び場・茂庭プレイパークへ、複数回参加することが、できればさらに児童の成長につながると思いますか？



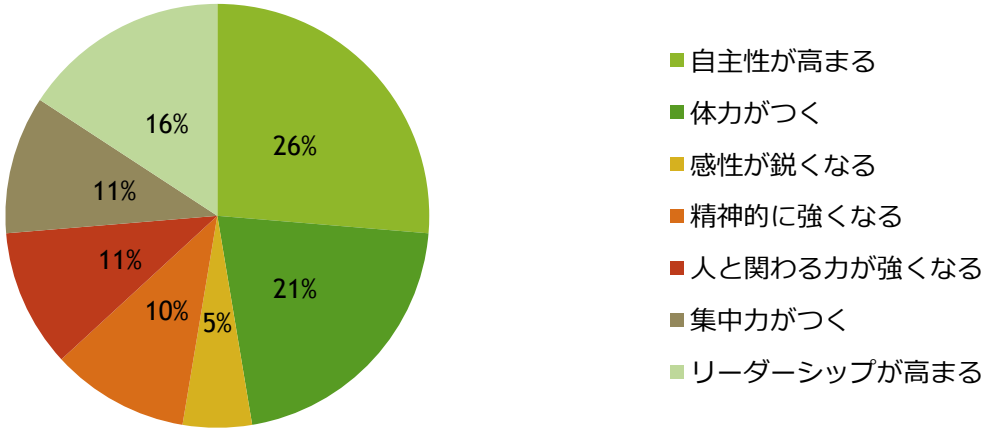
Q9　プログラム申し込みから事業終了後までの間で、不安を感じられたのはどんな時ですか？

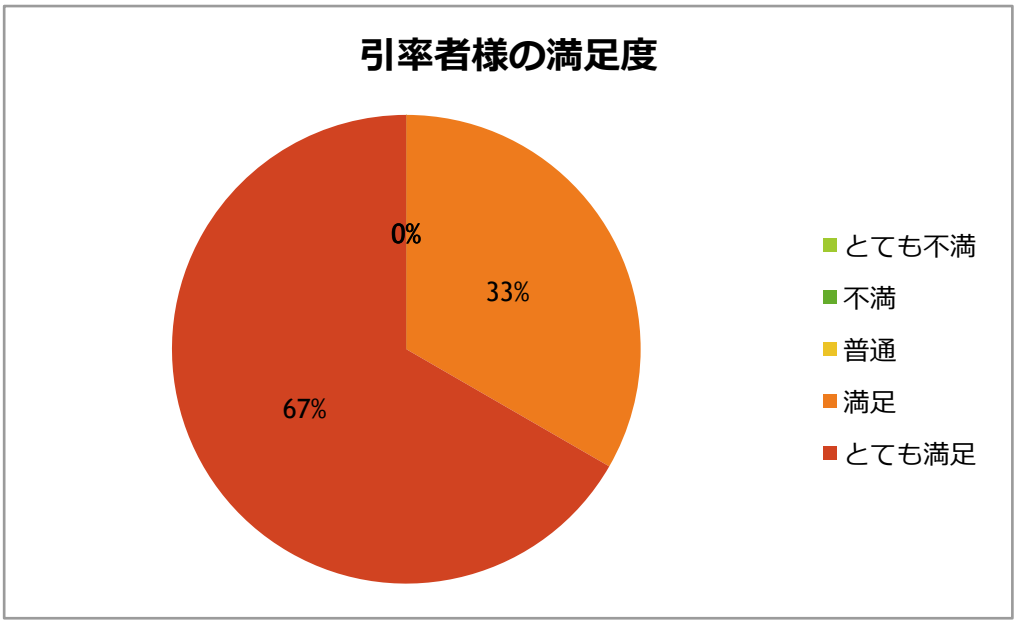


Q9-2　Q9の質問で「不安」を感じられた方へ、それはどのような「不安」でしたか？

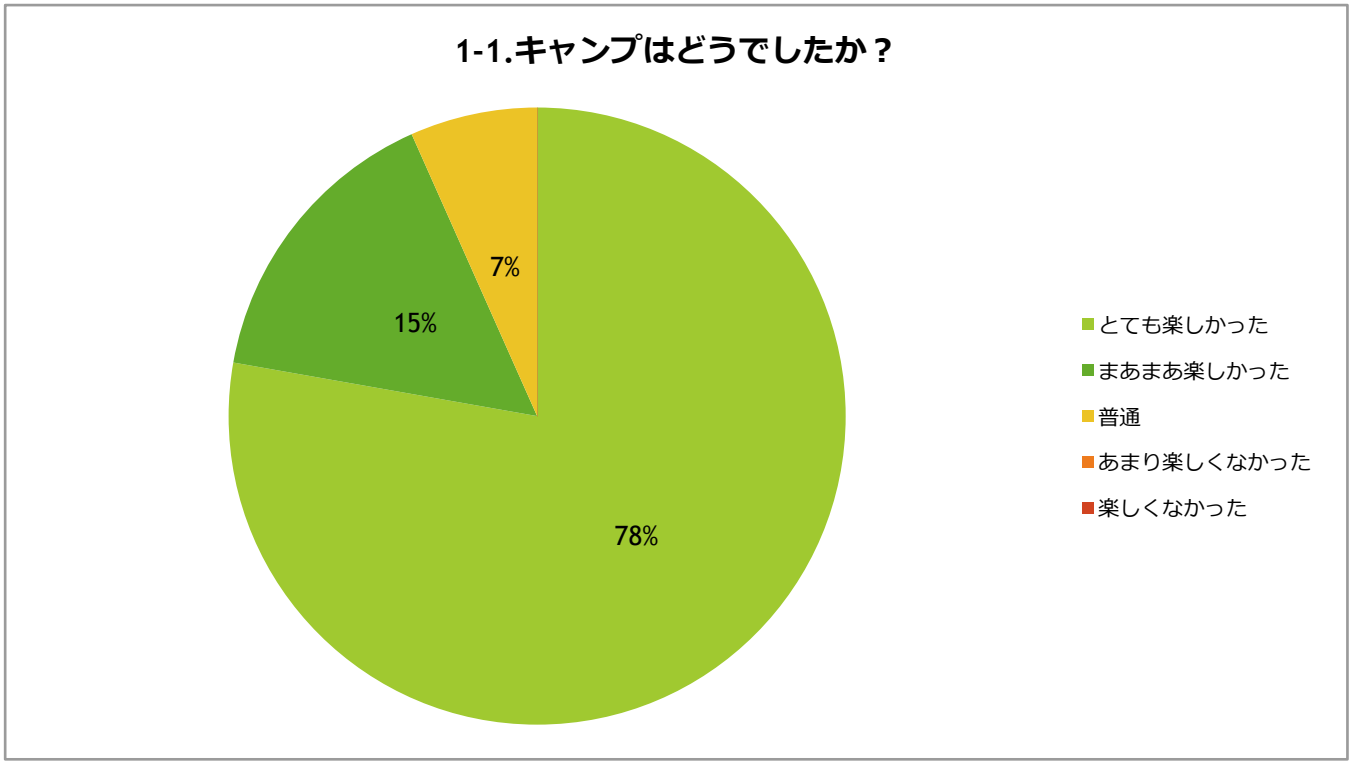


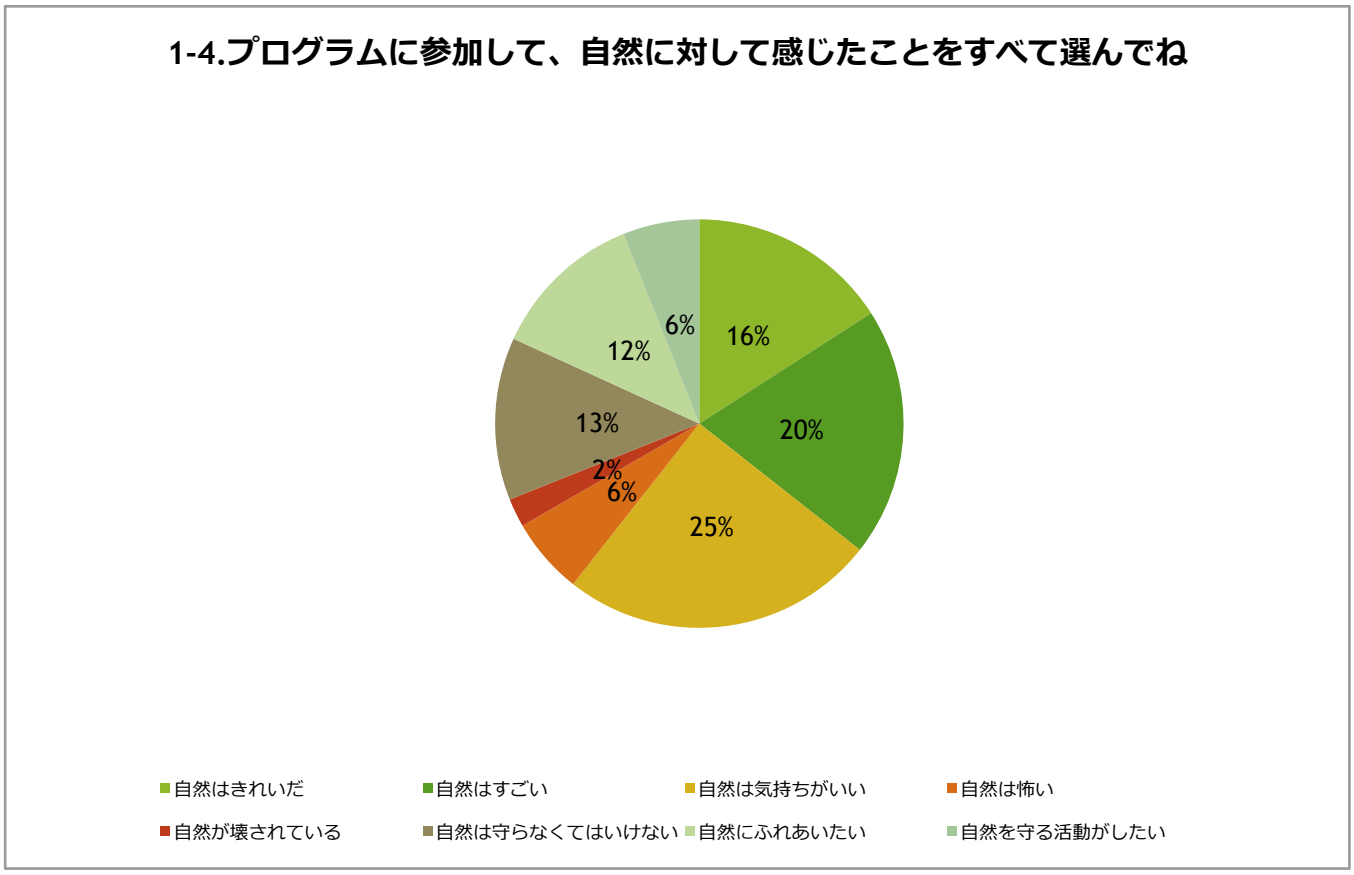
Q10　今回事業に参加してどのような力が身につきましたか？



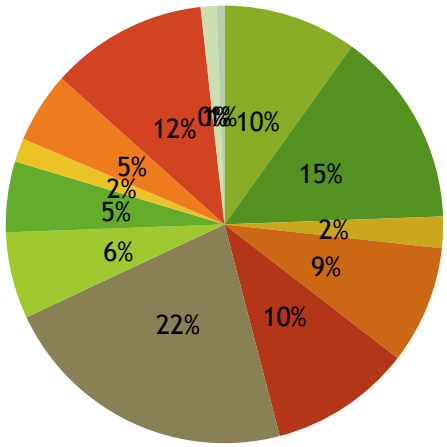

引率者様の満足度
0%
33%
67%
とても不満
不満
普通
満足
とても満足

⑤子どもアンケート結果（子ども用）

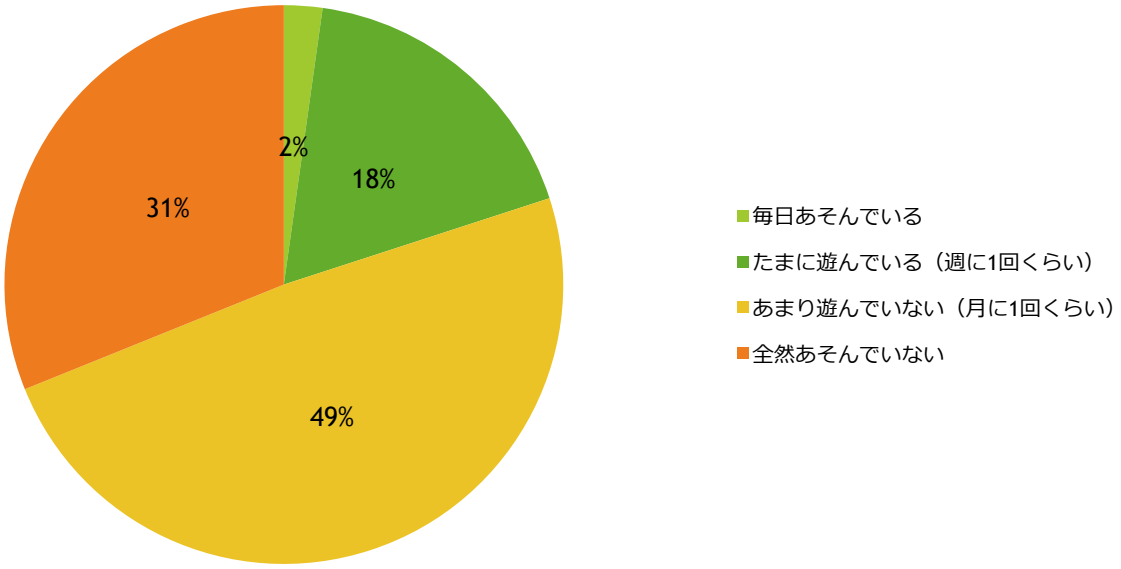




1-5.プログラムに参加して、1-4以外に感じたことをすべて選んでね



1-6.いま自分が住んでいるところで、森や川など自然の中で遊ぶ機会はどれくらい、ありますか？



（２） 聞き取り調査

■齋藤譲氏（冒険こども広場を利用する子どもの保護者）

Q0.そこはどんな地域ですか？

ここ、飯坂エリアは、地縁が強い。年に１回、地域の人びとみんなが関わるお祭り「八幡神社例大祭（けんか祭り）」があるため、それを介した地縁のつながりが維持されている。よそ者には排除的なところもあるが、内部の結束は強い。

自宅があるのはまちの中心部。冒険こども広場が開かれている乙和公園が近くにある。中心部には子どもがいる家が少ないので、子どもがいることそれ自体が喜ばれる。おばちゃんたちがうれしそうに話しかける。見守ってもらえる環境。少し離れたところに新興住宅地があり、そこは子どもがたくさんいる。公園にはそこから遊びに来ている子どもたちが多い。

Q1.冒険こども広場を利用しているのは？

小学５年（11 歳）の娘と小学３年（9 歳）の息子がいる。他の曜日（月・火・木・金）は習いごと――学習塾、プール、ピアノなど――をしているため、水曜日しか遊べる日がない。

その水曜日に冒険こども広場が乙和公園で開かれているため、主に息子が参加している。娘は家で本を読んだり友だちを連れてきておしゃべりしたりすることのほうが多い。たまに友だちの家に遊びに行っているようだ。息子のほうはサッカーが好きで、公園に行く。するとそこに「こっぺ」（プレイリーダーの佐藤耕平さん）がいる。いろいろやってもらって楽しんでいるようす。帰宅してすぐ遊びに出かけることから、公園での時間を楽しみにしていることがわかる。とくに水曜日は習いごとが休みで、友だちと自由に遊べる。毎回３～５時までの間、たっぷり楽しんでいるようだ。

もし大人が見ていてくれるのなら、終わりの時間が５時すぎになっても多少はかまわない。学校から５時には家に帰れ、という指示があるようだが、それは各家庭が、親の責任で判断すべきことだと思う。

Q2.冒険こども広場に関わることで、子どもや家族にどんな変化があったか？

冒険こども広場があることで、息子が乙和公園に頻繁に遊びに行くようになった。とくに小学校に入ってからは、１人でも公園に行くようになった。いまは、仲良しの子たちといっしょに学校から帰ってきて、荷物をおくとすぐ公園に遊びに行く。冒険こども広場がなければ、おそらくは友だちの家にいったり、自宅に何人かで集まったりして、DS などのゲーム機器で通信をして遊んでいただろう。おそらく、身体を動かす外遊びにはならなかっただろうと思っている。通信ゲームは友だちどうしで、どこであってもできること。外遊びには、そこでしかできないいろんな経験があると思う。

例えば、公園には、ふだんはほとんど関わる機会がないような、年上／年下の学年の子たちもきている。そういう子たちといっしょに遊び、関わることで、異年齢集団の中での自分のポジションに気づいたり、そこでの自分のふるまいを学んだりすることもたくさんあるだろう。実際、親子の会話のなかにも、同じ学年ではない上や下の子たちの話題がでてくるようになった。成長して大人になっても、そうやってできたつながりはきっと活きていくだろうと思う。

冒険こども広場では、プレイリーダーの大人にいろんな道具を準備してもらっているので、ふだんとは違ういろんな遊びができているようだ。例えば、ハンモックを設置してもらったということが家族の話題にあがった。ふだんはやらない遊びを教えてもらうので、楽しそうだ。やはり小学３年の頭で思いつく遊びには限界がある。彼らだけでは思いつかないような遊びの機会を提供してもらえるのはありがたい。

外にでかけて、身体を動かして、たっぷり楽しんで帰ってくる。明らかに外出頻度は増えている。そういう経験の機会を準備してくれているのは大変ありがたい。なので、ぜひ続けていってほしいと思う。

Q3.冒険こども広場があることでよかった点は？

こういう機会がなければ、何もない、ただ遊具が置いてあるだけのだだっ広い公園があるだけ。でも、冒険こども広場があることで、公園で小学生たちが群がって、集まって、にぎやかに何かをやっているまとまりある場が生まれている。夕方、公園を通りかかるとよくそういう光景を目にする。冒険こども広場が開設され、プレイリーダーがい

ることで、子どもたち相互の関係性が固まらず、関わりが多岐にわたってつむがれていく感じがある。

安心できるのは、そこに大人がいて、何かを教えてくれているということ。場を監督し、指導してくれる大人がいる。ケガもいちどもない。けんかやいじわるといった話も聞かない。きっと子どもらには「楽しい居場所」という記憶が残っていくだろう。それも、プレイリーダーがしっかり安全管理をしてくれているためだろう。子どもたちだけが集まっているわけではないので、親からすると安心感がある。

以前、ある学童でアルバイトの指導員が、小学校高学年の子たちが低学年の子たちをいじめていても介入せずにただ黙ってみていた、という出来事があり、問題になった。学童の指導員は女性であるため、どちらかというと、叱ったり注意したりするのが苦手なのかもしれない。そういうことがないのは、男性のプレイリーダーには必要なときにちゃんと叱ってくれる役割を果たしているためだろう。これからもそうしてもらえるとうれしい。

Q4.震災後の福島県における外遊び環境をどう考えていますか？

屋根つきドームや屋内砂場など、屋内で遊べる施設をたくさんつくっている、という印象。自分は、2011 年 11 月にこの家を建てたくらいなので、放射線のことはあまり気にしていない。なので、子どもの遊ぶ場所について、外だろうと内だろうと気にしない。彼らの行動を制限するつもりもない。むしろ積極的に外で遊んできてほしいと思う。遊ぶ場所が自宅の近くにあるのはよいことで、それにつながる活動をしてくれるのはありがたい。

Q5.冒険こども広場への要望は？

子どもたちが勝手に遊びに行って参加している、というもの。親たちがお金を出しあって共同で雇っている、というわけではない。NPO の人たちが自発的に、無料でやってくれていることなので、その内容に関してこちらから積極的に要望するなどおこがましい、という感覚。「ありがとう」という思いしかない。子どもたちの自由意思による参加なので、安全面さえ気をつけてくれれば、NG 項目もない。ただし、冒険こども広場

の側から何か「お知らせ」のようなものがあれば、それに対して親の側からそれに応えたり、何らかの声を返信したりすることはできるかもしれない。

県に対して何か要望があるとすれば、ぜひこれを継続してほしいということ。なくなってしまったら、期待してまっていた子どもたちが「あれ、どうして来ないの？」ということになると思う。子どもたちが気軽にいける外遊びの環境を続けてほしい。思いつきで何かを始め、途中でやめる、みたいなことだけはやめてほしい。始めた以上はきちんと続けるのが公の役割。その役割をしっかり果たしてほしい。

■ 大槻光子氏（冒険こども広場を利用する学童クラブ「かしの木」の指導員）

Q0.そこはどんな施設ですか？

学童クラブ「かしの木」。１～６年生までの 25 人ほどの子どもたちと７～８人の指導員が所属している。

Q1.冒険こども広場を利用したのは？

2016 年の夏（７月、８月）に２回利用した。１回目は年間計画の予定にあったものだが、２回目は県から交通費を出してもらえることになり、急遽利用できることになった。震災の翌年から、年に１～２回の頻度でお世話になっている。参加しているのは、茂庭広瀬公園の一角で開かれている冒険こども広場。近場にあり、放射線量も少ない、行けば丸一日子どもたちが楽しく過ごせる、ということで参加している。

もともとは、Save The Children Japan にさそいを受け、Save The Children Japan のスタッフといっしょに参加したのが最初。それがすごくよかった。子どもたちだけでなく、指導員もゆっくり過ごせる。最初はとてもハラハラドキドキだった。日ごろ、学童では何かあるとすぐ子どもたちに注意を促していた。ところが、Save The Children Japan や冒険こども広場の人たちは、子どもたちの好きなように任せて待つ、というスタイルで活動していた。まずは任せて、子どもたちから何かが出てくるのを待って、それに応えるかたちで動く。そういう彼らのやりかたを見ることができて、すごく勉強に

なった。子どもたちのほうでも、そういう冒険こども広場の流儀を自然に理解していったようだった。

プログラムは、9：00～16：00 の間、学童クラブの子どもたちと指導員とがバスに乗って茂庭広瀬公園に出かけていき、そこで過ごす、というもの。1～6 年までの全学年、基本的にみんなが参加する、という形式をとっている。このプログラムのときだけ参加する、という子もいる。たいていの子は、一度行くと「また行きたい」となる。

Q2.冒険こども広場に関わることで、子どもや学童にどんな変化があったか？

2016 年の夏の参加で非常に顕著だった。その年の新 1 年生の子どもたちは、とても落ちつきがなく、指導員の話もきかず、日々の指導がとても大変だった。10 分おきに指導員がどなっている、という感じだった。そんな子どもたちが、茂庭の冒険こども広場に参加した。

1 回目の参加のとき、水遊びをするため、子どもたちが水着に着替えるという場面があった。ふだんであれば、指導員が声をかけてまわり、「早く着替えなさい」と言われてはじめて動く子どもたち。しかし、冒険こども広場のスタッフから「子どもたちには何も言わないで」と言われていたので、がまんしてじっとようすを見ていたら、高学年の子たちが先に状況に気づいて、下級生の子たちに「早く着替えないと水遊びができなくなるよ」と声がけを始める、という場面がうまれていた。2 回目の参加のときは、同じような声がけがずっと早い時点で始まった。こんなふうに、子どもたちの間では、自主性の芽生えが見られた。

他のことについても、似たような自主性の現われを目にすることができた。例えば、木にロープをはる場面。作業の最中、木の下に人がいると危ない。ふだんなら木の下に誰かが入りこんだりしないよう、指導員が注意を促すところ。しかし、茂庭では 4 年生が注意する、という場面が見られた。こんなこともあり、2 回目の参加のときは、指導員も何も問題がおこらぬようピリピリ神経を張りつめたりせず、ゆったりとした 1 日を過ごすことができた。

さまざまな変化は、2 回目の参加をへてはっきりと自覚することになった。それまで 10 分おきに注意していたのが、30 分に 1 回、1 時間に 1 回と、指導員が注意しなければならない場面がどんどん減っていった。夏休み終わりには、指導員ではなく、上級生

の子どもたちが下級生に注意をするようにもなった。そんな中、子どもたちが「お昼ごはんをすべて自分たちだけで準備するのをやってみたい」と言い出した。茂庭の経験もあったので、やらせてみたら、無事にできた。ちゃんと任せてもらえたら自分たちでやれる、という子どもたちの自主性への気づき。指導員の間では、これを「茂庭効果」と呼んでいる。

思えば、１年生が入ってきたばかりのころは、本当にいろんな事件があった。通学路にある家の庭に勝手に入る、成っている果樹の実を勝手にとる、などなど。これが、二学期が始まると、何事もなくちゃんと帰って来れるようになった。上級生が下級生の面倒を見る、お互いに気を配る、といったことが子どもたちの間で発生するようになった。他者に配慮し、協同して何かことにあたる、ということができるようになっていく子どもたち。すごく大きく変わった。ずいぶん大人になった、という感じがする。

Q3.冒険こども広場があることでよかった点は？

プレイリーダーがいてくれるおかげで、子どもたちが、ふだん関わっている学童クラブ指導員（女性）とは違う大人（男性）と関わることができる。プレイリーダーの彼らは、基本的にはどんとかまえていて、必要なときにちゃんと厳しく言ってくれる。女性である学童指導員だと、どうしても母親目線になってしまう。彼らといっしょだと、子どもたちは、いろんなことにチャレンジして、ケガをしたとしても、そこから何かを学んでいく。学童では、先回りして周囲にある危険なものを除去し、ケガをしないように、となってしまう。冒険こども広場では、ああいった場でしか体験できないことに挑戦させてもらえる。しかもそれを、自由にのびのびとさせてもらえるのがありがたい。学童ではカッターさえも使わせてもらえない。一方、茂庭ではノコギリやかなづちなど、何でも挑戦させてもらえる。

遊びかたについても、子どもたちにはいろんな気づきや学びがあったことと思う。ふだん学童では、そこにあるものを使って遊ぶことしかできないが、冒険こども広場では、ロープやかなづちなど、いろんな道具を準備してくれているため、工作などをしながら、自分たちで考え、工夫して何かをつくりだしながら遊んでいる。自由に試行錯誤することができる、開放的な空間。そういう場だからこそ、想像力が刺激される。例えば、川遊び。ふだんは行っちゃダメと言われるような場所にまで連れて行ってもらえる。「す

ごかった！」と感動して帰ってきて、親にもその感動を伝えようと興奮して熱く語ってくる。その後、親子連れで再び茂庭に行ってきたという家族もある。牧場とかなら一度行けばそれで終わり、みたいなのが一般的だが、茂庭には何度でも行きたい！となる。今年は行って何をしよう、何がおこるだろう、と期待を膨らませ、楽しみにしているようだ。

子どもたちを参加させた家族にとっても、いろんな意味があったと思う。子どもが茂庭での体験を語ることで、親子間のコミュニケーションは活発になっただろう。事後、アンケートをお願いしているため、それを親子で話しながら書く場面がある。冒険こども広場のスタッフに感謝の手紙を書くという場面もある。そうしたことも含め、ふだんできないことをたくさん経験できたわけなので、親たちもありがたく感じているのではないかと思う。

参加した子どもたちとその家族だけでなく、学童の指導員にとってもたくさんの学びがあった。学童での指導員の関わりは、危なくないように、常に先回りして注意を促したり指示したりする、というもの。「これをやったら危ないでしょ」「こうやるといいよ」と、子どもたちが自分で考える前に先回りしてしまう。これでは、子どもの自主性などとても育てられない。安全性と自主性のジレンマ。しかし、茂庭の体験を経て、実際にやらせてみたところ、ひどいケガをすることもなく、自分でしっかり考えて、上の子たちが下の子たちにアドバイスをする、という姿を目にすることができた。そのあたりから、いかに子どもたちに考えさせるか、ということを工夫するようになった。何も言わず、黙ったまま見守る、ということを自分たちも学ばなければならない。冒険こども広場への参加は、学童の指導員が、そういう子どもとの関わりかたに年に１～２回直にふれることができる貴重な機会となっている。

Q4.震災後の福島県における外遊び環境をどう考えていますか？

除染がすんだ後は、外遊びは１日 30 分まで、というルールでやってきた。家族へのアンケートがその根拠。いまの場所には、2016 年 3 月にひっこしてきた。庭がないため、外遊びをさせようと思ったら、少し離れた公園まで引率しないといけない。そうなると、往復時間をひくと公園に滞在して外遊びできる時間がかなり限られることになる。引率もかなり大変だったので、ひっこしてきてからは、日常的にはほとんど外遊びはさ

せていない。遊ばせてやれるところが少ないので、日常的にはどうしても機会が乏しくなってしまう。

他の学童クラブでは徐々に外遊びの時間制限が解除されるようになってきているが、全般的に子どもたちの外遊びは不足していると思う。遊ぶとなると、部屋でゲームが一般的。公園に来ている子どもはあまりいない。もともと遊びの中心をゲームが占めるようになってきていたところに、プラスして放射線問題が加わった。そういうこともあり、大人や親の感覚として外遊びにはあまり熱心ではない、というのが一般的。学校ではすでに自由に遊ばせるようになってきている。子どもたちからは、「もっと外で遊びたい」という声は出ていない。とはいえ、震災直後に入ってきた子どもたち（いまの４～５年生）の間で、鬼ごっこをしていて障害物をよけられない、すぐ転ぶ、といったことが目立って生じていた。幼稚園や保育園で外遊びしないできたからだろう、というのが大人たちの推測。そういう状況だからこそ、冒険こども広場@茂庭のような外遊びイベントがあれば、積極的に利用したいと思っている。

Q5.冒険こども広場への要望は？

交通費の補助をお願いしたいと思う。最初の年は、路線バスで会場まで出かけた。しかし、２年目からはちょうどよい時間のバスがなくなり、バスをチャーターして行くことになった。そうなると往復の交通費だけで、７～８万円かかってしまう。これが改善されれば、もっと頻繁に参加することができる。顕著な変化が見られた 2016 年の２回目の参加は、そもそも県からの交通費補助がでたことで可能となったもの。補助がなければ参加できなかったし、参加できなければ、あのような著しい成長はうまれなかっただろう。

とても意味のある事業なので、ぜひ続いていってほしいと思う。学童クラブ指導員が集まる福島市の連絡協議会でも、冒険こども広場のことを PR してきた。夏休みはどうだったか、というふりかえりと共有の機会に「茂庭の冒険こども広場はとてもよかった」と話した。

「かしの木」には、障がいのある子が来ている。はじめて行く場所、遠い場所は苦手な子なので、そういう企画には参加するのが難しい。でも、茂庭広瀬公園なら 40 分で行ける。しかも、繰り返しその場所を訪れることで、たとえ最初は苦手でも徐々に慣れ

ていくことができる。自分の好きなことをしても、指導員や他の子に責められない空間であるため、発達障がいのある子どもにとってもいい場所。プレイリーダーに特別支援教室に関わっている方もいるのもよい。車いすの子どもたちだけを集めたプログラムも準備されている。いざとなったらしっかり介入する、それまでは子どもたちの自由に任せ、じっと見守る、というプレイリーダーのスタンスが安心できる。

■野中ツギ子氏（冒険こども広場を利用する児童館「福島市野田児童センター」の所長）
山縣敦子　氏（冒険こども広場を利用する児童館「福島市野田児童センター」の指導員）

Q0.そこはどんな施設ですか？

「社会福祉法人　福島市野田児童センター」。0 歳～18 歳が集える居場所で、午前中は母子、午後は放課後児童クラブとして主に使われている。放課後児童クラブの会員は 72 人（小学 1 ～ 3 年生のみ）。基本的にどんな子でも利用できる。

Q1.冒険こども広場を利用したのは？

年に 3 回、利用している。茂庭広瀬公園での冒険こども広場に参加する場合と、出張で冒険こども広場の人びとに来てもらい、児童館前の広場でプレイパークを開設してもらう場合（出前プレイパーク）とがある。

前者の場合は公募をかけ、40 人くらいの子どもたちと児童館職員 5 人が大型バスに乗り込んで茂庭に出かける。おおよそ 3 分の 2 が固定メンバーで、 3 分の 1 が新規の参加者。子どもたちの間で「いっしょに行こう」とさそいあう姿も見られる。7 割が低学年、3 割が高学年の子たち、という構成になっている。他方で、出前プレイパークのほうには、児童館にきている 50 人ほどの子どもたちが参加する。

冒険こども広場との関わりは 3 年前から。「ビーンズふくしま」主催のプレイパーク見学ツアーに参加したのがきっかけ。「ほっぺさん」（プレイリーダーの佐藤耕平さん）とも知り合った。あちこちのプレイパークを見学して、目からウロコの衝撃を受けた。これはすごい！と他の同僚にもツアーを経験してもらった。さらには、他の児童館スタッフにも声をかけてもらった。

Q2.冒険こども広場に関わることで、子どもや学童にどんな変化があったか？

冒険こども広場に参加するようになって、自然に対する興味関心が広がっているように見える。児童館だと、どうしても禁止事項が多い。一方のプレイパークでは、場所への遠慮なしに、のびのびと遊ぶことができる。みんな、それぞれ違うものをつくっていた。

児童館でも、自分たちで考えながら遊ぶようになってきている。例えば、秘密基地遊び。児童館の庭の一角に大きめの石を集め、基地をつくりはじめた子たちがいる。また、茂庭の冒険こども広場でのこぎりを体験してきた子どもが、出前プレイパークの際、まだ使ったことがないという子に使いかたを教える、という場面が見られた。あるいは、出前プレイパークにて、竹のジャングルジムづくりをしたときのこと。子どもたちがプレイリーダーから縄で編むやりかたを教えてもらっていた。その次に、冒険こども広場でロープを木に結ぶという場面があったときに、先の子どもたちが自然に縄を手にし、（まだできないのに）積極的にそれをやろうとしていた、ということがあった。一般には、「結ぶ」ということができない子どもたちも多い。道具を使えないのは、そういう経験をさせてこなかった大人の側の責任だと思う。ところがここでは、自然に道具を手にし、自分たちで進んでやろうとする気持ちが子どもたちに生まれていた。道具とのなじみ。自分でやろうとする主体性。これらはみな、プレイパークの効果だと感じている。

Q3.冒険こども広場があることでよかった点は？

児童館では、子どもたちとの関わりがどうしても保守的になってしまう。「危険だからやらない」になってしまいがち。禁止言葉が多かったように思う。それが、職員それぞれがプレイパークについて学び、実際にそこに参加するようになって、「危険かもしれないけど、やらせてみよう」という発想に変わってきた。「石は危ない」から「石で遊ぼう」へ。危険かどうかというよりも、工夫すれば楽しいものにできる、というところに観点が変わってきた。頭ではわかっていたつもりだったが、改めてそのことに気づき直すことができた。

そういう点では、冒険こども広場への参加には、職員研修としての意味合いもあったと言える。自分たち児童館スタッフとは違う職場の方たちの子どもたちとの関わりかた、

危険とのつきあいかたを見せてもらうことで、非常のたくさんの学びや気づきがある。既存の職員研修は、同じ職種の人たちだけで行われることが多い。それだと、同じ目線や視点の人たちどうしなので、新しい視点や発想などは生まれにくい。冒険こども広場はそうではない場なので、自分たちとは異なるものの見かたや考えかたに気づかせてもらえる、という感覚がある。

とりわけ、プレイリーダーのたたずまいから気づかせてもらえたことがたくさんある。細かいことをいちいち言わずに、子どもたちの遊びをおおらかに見守る、というありかた。子どもたちからすれば、いちいち介入してこないからこそ、自由にのびのびと試行錯誤することができる。そういうかまえの人たちが支援者として存在する場にいっしょに身をおくことで、「黙って見守っていられる自分」というものをつくっていくことができた。自分たちだけで「黙って見守る」というかまえをとることはかなり難しい。

もうひとつ、非常に勉強になったのは、自由や安全についての考えかた。彼らは、自由にさせることで安全性を犠牲にしているわけでは決してない。一見なんでもさせてくれているように見えて、実はものすごく繊細かつ入念に、危険な個所や事柄をチェックしている。実はすごく細やかに、安全性に配慮した空間のデザインを行い、その上ではじめて、自由にやらせている。彼らが見ているのは何なのか。そこをもっと知りたいし、学びたいと思っている。

いろんなことを学べたことで、児童館での日常的な子どもたちの関わりにも変化が生まれている。例えば、ケガの手当ての場面。かつてはケガをした部位に薬品を塗るということを普通にやっていたが、プレイパークで学んだことで、ケガの手当のときには薬品を使うのをやめ、水でやることにしている。

そういう関わりになっていったことで、子どもたちも変わってきた。あるとき、児童館で子どもたちが「火をおこしたい」と、木と木をこすりあわせ、火おこしのマネっこ遊びをしはじめた。茂庭で体験したのかもしれない。挑戦してみよう、という姿をよく見かけるようになった。集中して長く遊べるようにもなっている。そんなときは、表情も活き活きしている。既成のおもちゃは工夫の余地が少ないが、プレイパーク由来の外遊びは工夫の幅が大きい。ひとしきり遊んでも、次もまた「今度はこうやって遊んでみよう」となる。楽しみながら身についていくこうした生きる力は、何かあったときに必ず役に立つ力になると思う。

また、プレイパークでの外遊びには、ケア的な側面もある。例えば、他の場面では乱暴な子だったのが、集中して外遊びしたことで、気分を落ち着かせてその後を過ごすことができるようになったというケース。学校も児童館も、枠組がカチッと決まっているハコの空間。どうしてもそういう場が合わない、そこでは息苦しさを感じてしまう子どもたちがいる。ところが、プレイパークはそうした枠を取り払った開放的な空間。そこには、自由とともに、安らぎがある。ある子どもは、冒険こども広場が開かれていた間、ずっと火のそばでじっと炎を見つめていた。誰にも何も言われず、自然な空間の中で、やりたいことを自由にやらせてもらえていた。そこは「規制をなくす」という設計が行われている場なので、例えば児童館なら「汚れるから NG」とされるような行為であっても、遠慮なく気にせずにやることが許される。炎を見つめていた子は、ナイロンの手袋を溶かしてしまった。しかしその子は、「火に近づけるとナイロンは溶ける」ということを、実体験を通じて理解できた、ということになる。

Q4.震災後の福島県における外遊び環境をどう考えていますか？

震災後の外遊び環境という点で言えるのは、子どもたちの体力が落ちているということ。学校の運動会などを見ていると、子どもたちが重なって転ぶ、といった場面が頻発する。一方で、ここの児童館の子どもたちはあまり転ばなかった。それは、ここの児童館が比較的早くから外遊びを再開していたためだろうと考えている。積極的に外遊びをさせないといけないと思っていた。外で思い切り遊ばないかぎり、体力がつかない。2016 年の運動会を見て、ようやく震災前に戻ったと思った。ここの児童館に来ている子とそれ以外の子の間で、ようやく差がなくなったため。

震災直後は、直接生きものに触る／触らせるということができなかった。数年たち、2014 年になってようやく、思いきり昆虫に触る／触らせるようになった。できなかったのは、福島市全体がそういう雰囲気に包まれていたため。放射線量が高いため、除染や再除染が必要、と言われていたが、それが済んでようやく線量も下がってきた。そのあたりから、子どもたちに葉っぱ摘みや草花摘みをさせていった。そうしたことを経て、次第に子どもたちが活き活きとしてきた。

小学２～３年になると、子どもたちにも次第に体力がついていくが、１年生のうちはケガが多かった。筋力がなく、遊具から頻繁に落ちてしまうのである。これは、幼稚園

や保育園で室内遊びしかやってこなかったためで、今もなお１年生の間で散見される。このため１年生は、児童館スタッフが常に注視している。彼らの特徴は、挑戦しないこと。やってみる前から大人の助けをかりようとする傾向がある。保育園や幼稚園では、散歩もほとんどしないし、遊具も低いものしかない。こういう状況なので、体力がつかないのは当然。何かをしないかぎり、体力不足をカバーできない。ここの児童館では、肥満児対応の遊具を復興税で設置してもらった。遊具で遊んでいるうちに、自然と体力がついてくる。しかし、外遊びできなかった期間の、その後の人生に対する影響はどうなっているのか。体力の不足のみならず、他にもいろんな影響がうまれているのでは、と不安を感じる。

Q5.冒険こども広場への要望は？

冒険こども広場を主宰できるプレイリーダーがあちこちに増えていかないとだめだと思う。いまの日本は、クレームにおびえる社会。学校教員も指導員も、いろいろとクレームを言われるから、つい先手を打ってしまう。ちょっとしたことですぐ病院、クレーム…となってしまうので、自己防衛的になりがち。まずは大人が変わらないといけないが、そのためには、これまで常識だと思ってきたのとは異なる発想や視点を学べるきっかけをもっともっと増やしていく必要がある。プレイリーダーはそのきっかけとなる存在だと思う。

そうしたプレイリーダーを増やし、一部の地域だけでなく、どの場所でもプレイパークが開かれている、という感じにしてほしい。いまは、室内遊びから外遊びへ、という機運がうまれつつあるが、それに合わせて、プレイパークを広く普及させてほしい。例えば、バス代を補助して無料にするとか。新設するのが難しいなら、既存の公園や広場、いますでにある場所を活用するなどして、あちこちで開かれるようにしてほしい。

Ⅳ．調査の分析と事業評価

●活動実績（実施回数・参加人数）の分析と評価

・本事業の参加人数

参加人数（子ども）

平成 28 年度　3,789 人

参加人数（保護者）

平成 28 年度　754 人

① 保護者の約 2 割の参加のによる効果

近年の子どもの遊び環境・機会の縮小要因として、社会や大人の外遊びや野外体験への眼差しの変化の指摘がある。（日本社会が抱える課題―クレームにおびえる社会―）公共空間での怪我や事故等を、起こさないよう管理体制を強化、教科の結果、安全性を担保する手段として禁止ルールを多く設け、子どもの遊びの機会を制限してきた社会（大人）の立場による遊び機会の減少を示唆している。

保護者（大人）の参加は、子どもの遊び環境に対する理解の変容の可能性がある。インタビュー調査結果では、冒険ひろばへの参加を通じて、子どもの自主性や相互補完性を確認し、管理的な教育立場から安全的視点を加味しつつ子どもの遊び機会を見守る立場へと価値観の変容が起こった事例も本事業を通じて確認されている。

② 子ども参加の増加

各実施団体のネットワークや広報を通じて、子どもの参加が 3,789 人であった。（前年度対比等は、前年度実績の記録がないために次年度以降に実施する事を推奨する。）

●活動実績（地域）の分析と評価

①今年度実施目標各地域 30 回以上の達成された。

・中通り 116 回会津地域 42 回浜通り 31 回と、各地域で冒険ひろばが行われ受益者に遊びの機会を提供できている。機会提供を通じて得られた成果に関しては各評価参照。

②冒険ひろば 17 箇所の設置

・平成 28 度事業においては冒険ひろばを福島県全地域（浜・中・会津）かつ各地域 4 か所以上の場所で拠点設置が行えた。定期開催された拠点や出前講座などの組み合わせで、多数のグループにアプローチできた事は望ましい。

●遊びの実績の分析と評価

①プレイリーダーによって確認された遊びの多様さと自由遊びの生成

＊ここで使用される遊びの呼称は、地域の俗称や分類されない遊びに関しては、プレイリーダーが名付けたものを使用する。

・のべ 122 種類の遊び（実数 120 種類）が本事業で行われた。遊びの種類の多様さも確認されたが、『既存の遊び（おにごっこ等）』から、『生成された遊び（生成された自由遊び』、『プレイリーダーとの関わりの中で起こる遊び等』、冒険ひろばの実施がもたらした遊びも多数ある。

・その要因として、第一にプレイリーダーが持ち込む道具の数々がある。ロープ・ハンモック・のこぎり・金槌などの自然体験提供者が取り扱う道具やファミリーゴルフや縄跳び等、スポーツ（ニュースポーツ）の提供者が取り扱う道具も用意された。公園に設置されている既存の遊具や木々等を活用し、道具による遊び種類の広がりを持たせられたのは事業の効果と考えられる。

・プレイリーダーから子ども達へ提案も、遊びの種類の広がりに寄与している。提案には具体的な提案、例えれば「子ども達は○○遊びしよう。」と言う言語での提案もあれば、道具を設置したりプレイリーダー自身が遊んでいる様子を見せる等、非言語での仕掛けもあった。それらの誘い掛けによって、子どもの遊びの種類の広がりを引き出したプレイリーダーの動機付けの専門性が遊びの種類の広がりを生んでいる。

・遊びの中には、子ども達だけで実施するのにはリスクがあるものも含まれていたが、プレイリーダーの安全管理の専門性によって実施する事ができた。インタビュー調査の中でも、プレイリーダーの安全管理の専門性に対して大きな注意を払っている語りがあり、かつプレイリーダーは、野外体験の安全管理者研修を受講している等の専門性をもっているため、信頼性と遊びの実効性が担保された。安全管理者の存在が遊びの種類の広がりに寄与している事が分かる。

＊本事業受託団体の子どもが自然と遊び楽校ネットでは、自然体験活動指導者の為の安全管理講習を実施して、指導員の安全管理能力の向上を図っている。

●アンケート調査の分析評価

・アンケートに回答した保護者の 50%以上が、
ほぼ毎日子どもに外遊びをしてほしいと思っている。

・アンケートに回答した保護者の 80%以上が、
子どもに自然体験をしてほしいと思っている。

・アンケートに回答した保護者の 93%が、
冒険ひろばへの子どもの参加に不安を持っていない。

・アンケートに回答した保護者のうち 7 パーセントが
冒険ひろばへの参加に不安を感じている。（５０%子どもの怪我病気・他の事のコミュニケーション 50%）

・アンケートに回答した保護者の 28%が
参加させた子どもの自主性向上を実感している。

・アンケートに回答した保護者の 19%が
参加させた子どもの体力向上を実感している。

・アンケートに回答した保護者の 100%が、
冒険遊びばの参加に関して満足している。

・アンケートに回答した子どもの
93%が参加し「とても楽しかった」もしくは「まあまあ楽しかった」と回答している。

・アンケートに回答した子どもの 49%が
自然の中で遊ぶ機会が「月一回位」と回答ている。「全然、遊んでいない」と回答している子どもは 31%である。

まとめ：遊びの実態＜保護者のニーズのギャップ
冒険ひろばへの参加は、保護者・本人ともに満足度が高い結果となっている。保護者のニーズとしては、外遊び・自然体験機会を子どもにさせたいとの回答が多かった。子ども対するアンケート結果との比較で、注目すべきは、子ども対するアンケートで自然体験機会が「月一回・全然ない」と答えた回答が、合わせて 80%だったのに対して、保護者のニーズ「外遊び・自由遊び」への機会提供のニーズは「ほぼ毎日」と答えた回答が 54%と実態とのギャップがあった。

●インタビュー調査分析と評価
①冒険こども広場に参加した子どもたちにとってのメリットや好影響

・ゲームの普及、放射能災害などにより外遊びの機会が減少していた状況下で、外遊びのきっかけや機会を得ることができていた（外遊び環境へのアクセス）。

・体力・運動能力、集中力、他者とのコミュニケーション力、未知のものへの好奇心、創意工夫、新しいことに挑戦しようという勇気や度胸、危機的状況への対処能力などといったさまざまな能力開発の機会を、外遊びを通じて手にすることができていた（能力開発の機会）。

・児童館や学校では得られないような癒しや安らぎの場を、プレイパークのなかで手にすることができていた（ケアの機会・居場所）。
・学年やクラスが異なる異年齢の知り合いや友だち、そういう人びととつながったり関わったりする機会を、プレイパークのなかで手にすることができていた（社会関係資本）。

②冒険こども広場に子どもを参加させた親たちにとってのメリットや好影響

・親子間のコミュニケーションへのネタ――「冒険こども広場で●●なことがあったよ」的な話題――がうまれることで、家族内のコミュニケーションが活性化し、良好な関係性の構築につながった（コミュニケーションの促進）。
・大人が見守ってくれる安心できる放課後の遊び場が自宅の近所にできたことで、子どもの動向に過度に気をとられずに自分の仕事等にとりくむことができた（安心できる託児場）。
・学校や塾では教えてもらえないような知識や技術を、プレイリーダーの大人から子どもが教えてもらうことができた（生きる力を学べる無料塾）。

③冒険こども広場に子どもを参加させた学童／児童館スタッフにとってのメリットや好影響

・プレイパークに参加したことで子どもたちの成長が促され、学童／児童館での過ごしかたにも、自主性など良好な変化がうまれた（学童／児童館の指導への側面支援）。
・冒険こども広場におけるプレイリーダーのふるまいやそこで生じたさまざまなできごとから、学童／児童館スタッフが、子どもたちとの関わりかた、場のつくりかたといった点でさまざまな学びや気づきを得ることができた（学童／児童館職員のスタッフ研修）。

・プレイリーダーのふるまいとその前提にある考えかたや哲学を知ったことで、現在の日本社会が抱える課題――クレームにおびえる社会――とそれにどう対処していくかの見通しののヒントを得た。

Ⅴ．事業評価まとめ

子どもの放課後や遊び環境を現した言葉の中に３つの「間」の喪失との言説がある。この３つとは、「時間」「空間」「仲間」である。本事業の調査（参与観察・紙面調査・聞き取り調査）に関わり本事業が、減少しつつある３つの「間」に対しての働きかけを確認する事が出来た。それぞれの「間」をキーワードに本事業の評価のまとめとする。

「時間」

保護者へのインタビューの中で印象的だったのが、対象者の地域では一週間のうち４日間習い事をしている子どもが多いとの語りがあった。平日の放課後は、週四日は習いごとをしてから帰宅し更に宿題をやると言う多忙な日常があると言う。習い事ではない時間の確保が難しい現状と、習い事が無い日においてもポータルゲームや家の中で過ごすなど、外遊びをする時間とりづらい現状に対して、冒険ひろばが外遊びの機会の確保に繋がっている事が保護者へのインタビューでも語られている。

更に、同じ課外活動であっても「習いごと」と「自由遊び」の差を記述する。冒険ひろばに従事するプレイリーダーの語りを紹介する。

①「学校の授業も習い事も、これをやりなさいと言う事をやる。それに対して上手に出来たかどうかでランク付けされる。遊びは基準がない行為。自分の発想で遊びを作り出す。与えられるのではなく、子どもが創造する機会が生まれる。創造的能力が高まる。（佐藤大吾）」

②「冒険ひろばでは、子どもが子どもでいられる時間を創りだし、子どもが失敗したり挑戦したりできる場つくりを心がけている。（佐藤耕平）」

彼らの、習い事との差別化実際の働きかけの影響を実際のアンケート調査で考察する事が出来る。冒険ひろば参加者の保護者の実感として、子どもの自主性が高まったとの回答が一番高かった。習い事に追われる子どもから、自らの関心で能動的に物事へ取り組み試行錯誤が保証された時間の確保が本事業によって一定時間（開催時間）達成されていと評価できる。

「空間」

近年遊びの空間、身近な公園等に対して「禁止ルールの増大」が明文化・非明文化されているのはよく耳にする。禁止ルールが増える背景としては、遊びの中で子どもが怪我をする・させる事に対する危機意識や場の管理者等への責任の追及からルールが厳格化されている事がある（クレームからの危機回避）。管理者も保護者も、リスクのある事は避ける事から「禁

止ルールの増大」、引いて言えば「自由空間の減少」が起こっていると考えられる。本事業は安全性を担保しつつ「自由空間の減少」に対抗しうると考察できる。

アンケート調査・インタビュー調査の対象になった保護者・指導者いずれからもプレイリーダーの持っている安全管理の専門性への期待と安心が見て取れた。プレイリーダーの語りからも、遊び空間づくりの重要事項として安全管理の配慮を行う役割自任が強く表れていた。提供側の配慮と受益者である子どもの保護者・指導者とのニーズのマッチングが合致している。合致している事から保護者・指導者の安心感が調査結果に表れている。不安感からくる「ルールの増大・自由空間の減少」に対して安心感から「自由空間の増大」へ転換している事が分かる。本事業の意義と可能性として「危険だから冒険させない」から「安全に冒険させる」場が成り立つ事が社会発信する事ができる。社会の眼差しの変容が「自由空間の増大」への期待ができる。

「仲間」

ここで言う仲間は、学校や習い事で知り合い交流する「友人」ではなく、友人以外の人・見知らぬ人を指している。それは前節でも述べたが、危機回避が強く求められる社会において、見知らぬ人との接触は危機であり回避すべき接触として「子どもに対して知らない人と話してはダメ（教育者・保護者）」「見知らぬ子どもに挨拶すると、子どもから不審者扱いされる（地域の大人）」などの逸話は、本調査中も耳にした。当然、事故や事件を避けるため上記の危機回避の配慮は必要である。

その上危機回避をしながら「仲間」の獲得に対して、冒険ひろばが寄与しているか参与観察・インタビュー調査結果から考察する。冒険ひろばで行われる「見知らぬ人」との交流は、大別すると以下のパターンがある。①プレイリーダーとの交流②拠点設置地域の異年齢の子どもとの交流③拠点設置地域の異年齢の子どもの保護者との交流④拠点設置地域の大人（散歩をしている人や公園を利用しにくる近所の人）⑤拠点設置地域外から来る子ども⑥拠点設置地域外が来る子どもの保護者である。列挙しただけでも 6 パターンの見知らぬ人との交流が生まれている。

①との交流は、冒険ひろばの設置者として、遊びのコーディネーターとして、深く子どもと関わるので当然、交流が発生する。交流の中身は、見知らぬ人から、目上ではない大人へ変容するとプレイリーダーの語りがある。「子どもにとってプレイリーダーは、身近な大人

（先生でもなく親でもなく一緒に遊ぶ大人）である事を心がけている。子ども達は、プレイリーダーに敬語を使わず、フレンドリーな付き合い同年代になった感覚で付き合っている。子ども達からの呼び名もキャンプネームなのでフレンドリー関係になりやすい。他の大人にはできない（近所の大人に声かけられても不審者扱いされる）役割を解除した大人との付き合いが経験できるし、ぶつかり合う交流が出来る。（佐藤大吾氏）」観察していても、遊びのコーディネーターとして安全管理者として、役割を解除した大人としての 3 役を担いながら交流している事が見て取れる。

②③④⑤⑥に関しては幼少期において同世代同年齢集団で遊びを行う日本の風潮の中で、少し大きなお兄さんやお姉さんや、地域の大人や地域外の大人との出会いを遊びを媒介して交流・経験している事が分かる。交流の中身としては、②③④⑤⑥のいづれも年齢が上位の者が年少者の遊びのサポートをしる場面が多く見られた。小学校低学年の子どもが幼児の面倒を見たり、小学校の上級生が下級生の面倒を見たり、保護者が他の子どもと交流したりと、グループの違う人々が交流している事実がある。

この事の効果の一つに、子ども同士の異年齢との関わり機会の創出による社会性獲得の可能性や、更にプレイリーダーの佐藤耕平氏は「地域の人との関わりの中で、知らない子どもの遊び声は騒音だけど、知っている子どもの声は元気を知らせる喜びの声になる。」と語りがある。保護者へのインタビューでも「中心部には子どもがいる家が少ないので、子どもがいることそれ自体が喜ばれる。おばちゃんたちがうれしそうに話しかける。（齋藤譲氏）」との語りがある。こういった地域の中での大人との交流で、子どもに対する遊び場での見守りの体制が強化されたり、または冒険ひろば実施時間以外においても派生的に地縁の見守りや子どもの遊びに対しての理解が促進される可能性がある。こういった交流は冒険ひろばやプレイリーダーの設置の成果と言える。

本事業の評価として子どもの遊びに関する 3 つの「間」の減少に対して有効との評価をする。本事業が行政・民間の協働事業との位置づけで考察しても、民間ノウハウを有効に活かした事例だと考察できる。

最後に課題としては、アンケート調査で明らかになった「遊びの実態」＜「ニーズ」のミスマッチの解消だろうと考えるが、評価において本事業の成果の一つ、事業を通じて社会（関わった大人たち）の価値観の変容「子ども時間の確保」「安全な冒険空間の確保」「社会関

係資本の再構築」の可能性を示せた事だと考察する。社会（大人）の考え方の変容が、本事業の目的「自らの責任で自由に遊ぶ」の達成への有効な手段だと言える。

（別添）

2011 児童心理-リーダー性

山形大学佐藤慎也

野外遊び活動と子どもの生活リズムに関する調査

野外遊び活動と子どもの生活リズムに関する調査実行委員会